



校友会事務局から

3年ぶりのKEIAIフェスタ

10月22日(土)23日(日)に3年ぶりのKEIAIフェスタが行われます。

新型コロナの感染状況が心配される中の開催となるため、以前のような出店はなく、クラス毎の企画(お化け屋敷・迷路・縁日等)や学生会によるフリーマーケット等を行うそうです。なお、コロナ感染拡大前に行われていました「花火大会」「ホームカミングデー」は、感染拡大防止のため今年も実施いたしません。

(新型コロナの感染状況によっては計画が変更になるそうです。)



さよなら佐倉キャンパス

2024年千葉敬愛短期大学は、敬愛大学のある稲毛キャンパス(千葉市稲毛区)に移転します。

30有余年の佐倉キャンパスでの学びは多くの優秀な教育者・保育者を輩出してきました。佐倉キャンパスの至る所に卒業生・在学生の思い出が刻まれてきたに違いありません。校友会では、卒業生・在学生の皆さんに佐倉キャンパスの思い出を綴っていただく取り組みをいたします。120文字程に思い出をまとめて下記までお送りください。校友会ホームページ・会報でお知らせさせていただきます。

yoshihisaohtsuka@outlook.jp(事務局長 大塚)

コロナが収束したら集まりましょう

校友会では、同窓会実施ためお一人1,000円の支援をしています。今は、コロナの感染拡大が心配されるために中止をしておりますが、再開する際には、ホームページやLINEでお知らせをいたします。

また、校友会では「敬短の輪」づくりのために校友会ホームページに会員交流ページを設けました。生活の一幕を掲載した「今これしています」で交流を行っています。「あの人、こんなことしているんだ。」が分かる交流の場になればと思います。読者の皆様もご参加ください。

校友会ホームページのアドレスはこちらになります。

<https://s-chibakeiai.com/kouyukai/>

編集後記

2022年・2023年は佐倉キャンパスのよき思い出を共有し合い、敬短の新たな歴史の礎をつくる年になると思います。会員のほとんどの皆さんが佐倉で過ごしました。先輩諸氏の会員の皆さんにとっては思い出の稲毛(穴川)移転することへの声を数多く拾い上げて行きたいと考えています。

皆さんの声を聞き合うために「パソコンやスマートフォンはちょっと。」という方には印刷物をお送りします。電子媒体が可能な方は、下記QRコードで校友会の友達登録をお願いします。敬短卒業生約4,700名の輪づくりにご協力をお願いします。

(千葉敬愛短期大学校友会事務局長 大塚孔久)

校友会LINE登録のお願い

校友会では、郵送ではお送りしきれない情報をホームページで発信しています。情報を更新する度にLINEでお知らせしています。まだ、登録されていない方はこのQRコードにてご登録ください。



お便りお待ちしております!!

事務局では会員の皆さんのご感想・お便りをお待ちしています。

◎郵送先

〒258-8567 千葉県佐倉市山王197千葉敬愛短期大学校友会事務局

E-Mail yoshihisaohtsuka@outlook.jp(事務局長 大塚)

H P <https://s-chibakeiai.com/kouyukai/>

◆お知らせ 会員の皆様へ会報を送付しておりますが都合で返送されてくる方がおります。都合により送付不要の方は校友会事務局迄ご連絡下さい。

千葉敬愛短期大学 校友会報

CHIBA KEIAI JUNIOR COLLEGE
ALUMNI ASSOCIATION

Vol.30

発行日/令和4年10月1日
編集・発行/千葉敬愛短期大学校友会
発行責任者/片山喜久子
〒285-8567 佐倉市山王1-9 TEL.043-486-7111

contents

ご挨拶.....②

千葉敬愛短期大学校友会 会長 片山 喜久子
千葉敬愛短期大学学長 明石 要一

これからの校友会.....③

千葉敬愛短期大学校友会 副会長 小山 定男
千葉敬愛短期大学校友会 副会長 坂下 諒

「佐倉キャンパスの思い出」.....④⑤

「MyLife」.....⑥⑦

短大から.....⑧

学生部長・教授 大野 雄子
学生会長 澤木ジェラルディンミュキ
KEIAIフェスタ実行委員長 高橋 葉

校友会事務局から.....⑩

編集後記 大塚 孔久



ご挨拶



「敬天愛人」が紡ぐ校友会の歩み

千葉敬愛短期大学校友会 会長 片山 喜久子

コロナ禍によって様々な活動が制限され、それまでの豊かな交流ができたことの尊さに気づいてから3年目になります。しかし不満を言うばかりでは、何も生まれません。制限の中で人は賢くなります。様々な可能性を見いだすからです。そのエネルギーの元となるものが「敬天愛人」です。そうして考え出されたことの一つが、校友会報で紹介されたLINEやホームページに寄せられた会員の声です。KEIAIフェスタや同窓会のような対面での活動が復活するまで、会員の日頃の様子を共有しながら校友会の絆を



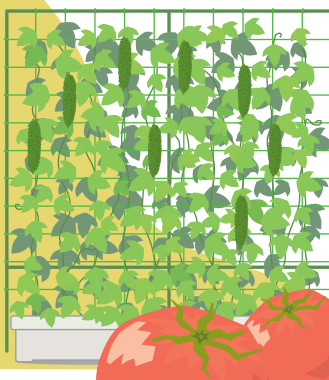
深めていきましょう。私は50年前に稲毛キャンパスで学びましたが、佐倉山王の広々とした美しいキャンパスの良さを今一度皆さんと共有したいと願っています。令和6年4月に稲毛に移る前に、校友会発足以来この地での豊かな歩みをしっかりと振り返り、記憶に刻みたいと思います。



ちばSDGsパートナーになる

千葉敬愛短期大学 学長 明石 要一

本学は、今年の3月に千葉県が進める持続する社会の実現をめざしているちばSDGsのパートナーに登録しました。具体的には、学生のボランティア委員の協力を得て、ゴーヤ植えて日よけ対策を行っています。ツタが伸び始め緑のカーテンができつつあります。もう一つは雨水を利用したプチトマトの栽培にも取り組んでいます。



これらの様子は、ホームページにアップされていますので、是非ご覧ください。

さらに、千葉市の呼びかけでコロナ禍の中、生活困窮状況にある学生に対して、フードバンクちばから食糧支援の提供がありました。

お米5キロ、カレー、飲料水など盛り沢山のメニューでした。学生に人気があり、あっという間にはけてしまいました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

コロナ禍の中ですが、秋のフェスタは行う予定です。楽しみにしててください。



これからの校友会



校友会 あってよかった

千葉敬愛短期大学校友会 副会長
小山 定男

これからの校友会は…敬天愛人の魂をしっかりとにぎり、昭和四十三年に、東京の教職に着き、退職してもう十五年、今思うことは、子供



達によって自分を教師に育ててくれたことに感謝、感謝、敬愛短期大学を卒業したからこそ



今日の自分がある、本当に良かったと言う、私のような声や、保育園や幼稚園で汗している現職の声、つらい時一人で悩まず相談できる会、学生の皆様が要望する声を掲示板で募集する、同窓会の補助金で会を開ける等のお手伝いをして要望に応えられる会、校友会があってよかったと言われるような会にしていきたい。



同窓生をつなぐ 校友会に

千葉敬愛短期大学校友会 副会長
坂下 諒

私は、学校現場で働く中で、多くの敬愛短大の卒業生の先輩や後輩に出会ってきました。短大は2年間ですから、在学中に出会う同窓生



は多くありません。しかし、これまでにたくさんの教育者を輩出してきた敬愛短大ですから、現場で活躍する先生方の中には、敬愛短大の卒業生がたくさんいます。同窓生で素晴らしい先生に出会うと、なんだか誇らしい気持ちになります。校友会の活動を通して出会った先輩と教育について語る機会も、私にとってとても貴重なものになっています。

校友会は、行事を通して、卒業生の皆さんをつなぐ活動もしています。感染症の影響で現在は今まで通りに行うことができていませんが、収束したらぜひ、総会やホームカミングデイに遊びにきてください。素晴らしい先輩や後輩との、素敵な出会いがあるかもしれません。

佐倉キャンパスの思い出

2024年にキャンパスが佐倉から稲毛に移転します。佐倉キャンパスで過ごされ、リーダーとして活躍された方に思い出を綴っていただきました。

01 田舎のキャンパスライフ

内田 依里さん(平成28年卒業)

私は佐倉キャンパスで2年間、先生という夢に向かって友だちと切磋琢磨して過ごしてきました。思い返せば、高校生の時訪れたオープンキャンパスでは「田舎なあ。」と、思い描いていたキャンパスライフは想像できなかったです。まさか想像を超えるとは知らずに、先生になるなら敬短にしようと決め、入学しました。

授業では保育のことをたくさん学びましたが、竹を割って流しそうめんをしたり、野菜を育てたり、ダンス大会や合唱祭、大きな花火が上がるフェスタ。先生や事務の方のアットホーム感すべてが大好きでした。他の学校では味わえないクラス単位での活動がほとんど。行事に一致団結して取り組んだこと、実習後にひさしぶりに級友に会えた時の喜び嬉しさは一生忘れません。

私には佐倉キャンパスでのたくさんの思い出があるからこそ今も先生という仕事に熱心に取り組めます。私の母も通った敬短。私の娘もいつか同じ夢に向かって敬短に通う日がきたらいいなと。キャンパスが移動しても敬短らしさを失わずいつまでも素敵な学校であってほしいと思います。

東京箱根間往復大学駅伝競走往路ゴール



03 学生時代の思い出

伊能 雅也さん(平成27年卒業)

私は2年間の学生時代を佐倉キャンパスで過ごしました。最初にキャンパスに来たのは、高校生の時のオープンキャンパスでした。保育士を目指して短大を探していた時、先生から勧められたのが敬愛短大でした。そして4月の入学式。夢への一歩を踏み出し、共に学ぶ仲間を得ました。ここでの2年間は忙しくもありながらもとても充実したものでした。実習が近くなれば学生課の先生と話し合いをしたり、テスト期間は夜遅くまで、友達と勉強会やピアノの練習をしたりと思い出が語りきれないほどあります。

私のクラスでは男子が2人に対しての女子の人数が多いクラスでした。しかしクラスメイトはみんな優しく2年間楽しく過ごすことができました。今でも連絡を取り合う仲になり、情報交換しています。佐倉キャンパスに集まった仲間達だったからこそその絆なのかもしれません。この仲間達を、絆を与えてくれた佐倉キャンパスには感謝してもしきれません。たくさんの思い出と素敵な仲間達との出会いをありがとう。



02 本気の雪合戦

藤澤 悠さん(平成25年卒業)

佐倉キャンパスでの一番の思い出。記録的な大雪の成人式の翌日、ラクダ山での雪合戦。寒さを感じることなく、本気で雪をぶつけあったあの日。今でも冬になると「楽しかったなあ」と思い出します。私はきっとこの先雪を見るたびにあの日のことを思い出すでしょう。



04 佐倉キャンパスの象徴ラクダ山

三星 菜々緒さん(令和2年卒業)

緑豊かな佐倉キャンパスには、至る所に2年間の思い出が詰まっています。

中でも特に芝生でできた小山、通称ラクダ山は大好きな場所です。そこで天気の良い日には仲間とランチをしたのを覚えています。また、体育祭など行事の記念撮影にも使用したため、あらゆる思い出が想起される場所です。



Hello

KUMA PAPAさん (1982年卒業)



還暦を機に退職をしました。主夫の仕事が一段落つくと車で10分の九十九里浜へ行って、チェアリングをしています。波が周りの音を消してくれて、読書もよし居眠りもよしの心静かな空間を作ってくれます。今の九十九里浜は、海水浴シーズン前の落ち着いた風情が楽しめます。浜屋顔の群生も目を楽しませてくれます。このページを見た方、この椅子に座っている私を見つけたら声をかけてくださるとうれいです。



このページは、充実した日々をお過ごしの方、OB・OGの方に、ホットなニュースを提供して頂くページです。

My Life

みなさんも、ホットなニュースがありましたら、LINE又は事務局までお知らせ下さい。お待ちしております。

Happy

日曜大工さん (1990年卒業)



休日、夫は庭いじりに夢中になります。「私も何か。」と思い、チャレンジしたのが日曜大工です。夫が放置したインパクトドライバーを使って、ベンチを作ってみました。

同じ大きさのベンチなので、組み合わせるとテーブルとベンチになり夫が育てた花を見ながら2人でお茶を飲みます。夫は昼寝台にも使っています。ホームセンターの端材置き場で見つけた材料を使って、花台や整理棚も作りました。子どもたちはそれぞれ独立して家の中は静かですが、時折インパクトドライバーの音が鳴り響く我が家です。

HAPPY



Cute

高橋 豊さん (1991年度卒業)



高校から吹奏楽を始め、学生時代や教員になったばかりの頃にいくつかの一般バンドに所属していました。21年前に今の小見川吹奏楽団に所属してずっとやっています。この写真は昨年12月のクリスマスコンサートのときのものです。3月下旬よりまた練習に参加しています。時々司会もやっているのですよ。趣味というよりはもう、ライフワークです。少し前の短大の卒業生でこども園の先生をやっている団員もいるのですよ。(昨年、そのこども園を訪れたときに園内で偶然会って知りました。) 心と体力が大丈夫な限りは続けていきたいです。今年は3年ぶりにサマーコンサートと定期演奏会ができますように。心と体力が大丈夫な限りは続けていきたいです。今年は3年ぶりにサマーコンサートと定期演奏会ができますように。



HOUGANさん (1982年卒業)



小学校教諭を退職した後、放課後児童支援員(学童指導員)をしています。小学校に勤めていたとき子どもから教わるのがたくさんありましたが、今の仕事でも子どもから教わるのが多くあります。

マフラーなど編んだことがなかったのですが、3年生の女の子から編み方を教えてもらい、帽子まで作れるようになりました。また、身近にあるものでおもちゃをつくる楽しさも教えてもらいました。

今日はどんなことをして遊び、どんなことを学べるか楽しみにしながら過ごしています。



My Life!

千葉敬愛短期大学からのお知らせ

敬愛フェスタ2022が始まります。



学生部長・入試広報部長
大野 雄子

いまだコロナが猛威をふるい、見えな
い規制や不自由な毎が続いていま
す。こんな時だからこそ、敬短は元気に
なれる挑戦をしています。まずは、1年
生の初年次教育「スタートアップゼミ」が
定着し、少人数での楽しい授業になっ
たこと、また後期には2年生対象の「ブ
ラッシュアップゼミ」として、全教員がそ
れぞれ個性や専門性を前面に出し学
生と共に学び合っていく新授業がス
タートします。その中で、ESDを推進する
本学ならではの取り組みが、それぞれ
のゼミで考えられていくことでしょう。ま

た、今年の敬愛フェスタでは、3年ぶりに
一般公開を行うことになりました。安全
対策をとり飲食の制限を設けておりま
すので、従来の形に戻るというわけでは
ありませんが、学生たちの手によって
一つ一つを精一杯紡ぎだしていく姿勢
は変わっていません。1.2年生ともに高
校生の時から文化祭を行っていない経
験をもっており、なんとか敬愛フェスタ
2022で夢を叶え、友達との絆を深めて
いただく機会となることを願っています。
卒業生の皆様も是非遊びに来ていた
だきたくよろしくお願いいたします。

「不安を希望に」

学生会長
澤木ジェラルディン
ミュキ(2年)



私たち学生は昨年、
先輩方がコロナ禍で辛
い日々を過ごしている姿を見ていました。
その姿をみて、コロナ禍でも学校生活を
楽しんで欲しいという強い気持ちがあり学
生会に入りました。現在、私たち学生会は
フェスタや体育委員を中心に学校を盛り
上げるための活動を始めています。

「敬短での思い出を最高のものにす
る」という目標を持ち、これからも全力で取
り組んでいきたいと思ひます。

「願いを込めて」

KEIAIフェスタ2022実行委員長
高橋 栞(2年)



2022年度KEIAIフェスタ実行委員長
を務めます高橋栞です。今年のテーマは
「軌跡～取り戻せ、青春の1ページ～」です。新型コロナウイルス
により様々な行事が中止や縮小を余儀なくされ、学生生活を楽
しむ機会が減ってしまった今、このKEIAIフェスタで学生生活
の思い出を作ってもらいたいという願いを込めました。

昨年度は新型コロナウイルスの影響によりオンラインでの実
施となりましたが、今年度は例年通り保護者の方や卒業生の
皆様を迎えて行いたいと考えています。各クラスやゼミごとの企
画のほか、外部の方を呼んでの企画などを考えています。実行
委員一同、皆様の青春、思い出の1ページとなるKEIAIフェス
タにできるよう準備してまいります。

2024年敬短は 稲毛キャンパスに移転します。

2024年春、総合学園として魅力ある教育環境の稲毛キャンパスの整備が完了し、千
葉敬愛短期大学は佐倉キャンパスから稲毛キャンパスに移転します。

新たな学びの拠点となる新教育棟も完成し、“文教のまち”稲毛で大学生・短大生が
共に学び合う活気あるキャンパスが誕生します。地上9階、地下1階の新教育棟は、学生
が生き生きと学ぶキャンパスを実現し、地域に開かれた学園としてさらに発展すること
を目指します。

